

福田村事件

監督：森達也

脚本：佐伯俊道 井上淳一 荒井晴彦

出演

井浦新 田中麗奈

永山瑛太

東出昌大 コムアイ 木竜麻生 松浦祐也 向里祐香 杉田雷麟 カトウシンスケ

ピエール瀧 水道橋博士 豊原功補 柄本明

企画：荒井晴彦 企画協力：辻野弥生 中川五郎 若林正浩

統括プロデューサー：小林三四郎 プロデューサー：井上淳一 片嶋一貴

アソシエイトプロデューサー：内山太郎 比嘉世津子 音楽：鈴木慶一

撮影：桑原正 照明：豊見山明長 録音：白井勝 美術：須坂文昭 装飾：中込秀志 衣裳：真柴紀子 ヘアメイク：清水美穂

編集：洲崎千恵子 助監督：江良圭 スチール：佐藤芳夫 メイキング：綿井健陽

美術監修：磯見俊裕 キャスティング：新井康太 東山光宏

クラウドファンディング・寄付：越智あい 宣伝：山口慎平 大阪宣伝：松井寛子 宣伝デザイン：100KG

特別協力：真宗教団連合 集英社 協力：東映京都撮影所 松竹撮影所 モノボライズ

文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

【2023年 | 日本 | DCP | 5.1ch | 137分】（英題：SEPTEMBER1923）

©「福田村事件」プロジェクト 2023 映倫番号：PG12-124008

配給：太秦 製作プロダクション：ドッグシュガー

製作：「福田村事件」プロジェクト（株式会社テソカフット、株式会社カタログハウス、辻野弥生、株式会社ビカンテサーカス、MBS、株式会社ドッグシュガー、太秦株式会社）

www.fukudamura1923.jp

配給・宣伝 太秦 （今村、佐藤、伊東、小林）

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-16-10 代々木エアハイツ 301

TEL. 03-5367-6073 Email. info@uzumasa-film.com

問い合わせ

宣伝 TAIRA （山口）

TEL. 090-4604-7709 Email. york29yamaguchi@gmail.com

大阪宣伝 風まかせ （松井寛子）

TEL : 090-3618-3974 Email. kazemakasejuso@gmail.com

Facebook / @fukudamura1923 Twitter / @fukudamura1923

関東大震災から 100 年、

9/1 金 よりテアトル新宿、ユーロスペースほか全国公開

—森達也から、みなさまへメッセージ—

関東大震災から五日が過ぎた 1923 年 9 月 6 日、千葉県東葛飾郡福田村の利根川沿いで、多くの人が殺された。多くの人が殺した。でもこの事件を知る人はほとんどいない。皆が目をそむけてきた。見て見ないふりをしてきた。惨劇が起きてから 99 年が過ぎたけれど、事実を知る人はもうほとんどいない。

450 万年前に樹上から地上に降りてきた僕たちの祖先（ラミダス猿人）は、直立二足歩行を始めると同時に単独生活だったライフスタイルを集団生活へと変えた。つまり群れだ。なぜなら地上には天敵である大型肉食獣が多い。一人だと襲われたらひとたまりもない。でも集団なら天敵も簡単には襲ってこないし、迎撃できる可能性も高くなる。

こうしてヒトは群れる生きものになった。つまり社会性。だからこそこの地球でここまで繁栄した。でも群れには副作用がある。イワシやハトが典型だが、多くの個体がひとつの生きもののように動く。だってみんながてんでばらばらに動いていたら、群れは意味を失う。特に不安や恐怖を感じたとき、群れは同質であることを求めながら、異質なものを見つけて攻撃し排除しようとする。

この場合の異質は、極論すれば何でもよい。髪や肌の色。国籍。民族。信仰。そして言葉。多数派は少数派を標的とする。こうして虐殺や戦争が起きる。悪意などないままに。善人が善人を殺す。人類の歴史はこの過ちの繰り返しだ。だからこそ知らなくてはならない。凝視しなくてはならない。

だから撮る。僕は映画監督だ。それ以上でも以下でもない。ドキュメンタリーにはドキュメンタリーの強さがある。そしてドラマにはドラマの強さがある。区分けする意味も必要もない。映画を撮る。面白くて、鋭くて、豊かで、何よりも深い映画だ。

荒井晴彦、佐伯俊道、片嶋一貴、小林三四郎、井上淳一、心強い映画人たちが結集した。関東大震災が起きた 1923 年から 100 年となる 2023 年 9 月 1 日に公開します。

ご期待ください。

—イントロダクション—

100年の時を超え、遂に、実話に基づいたかつてない日本映画が公開される。

1923年9月1日11時58分、関東大地震が発生した。

そのわずか5日後の9月6日のこと。

千葉県東葛飾郡福田村に住む自警団を含む100人以上の村人たちにより、利根川沿いで香川から訪れた薬売りの行商団15人の内、幼児や妊婦を含む9人が殺された。

行商団は、讃岐弁で話していたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。

逮捕されたのは自警団員8人。

逮捕者は実刑になったものの、大正天皇の死去に関連する恩赦ですぐに釈放された…。

これが100年の間、歴史の闇に葬られていた『福田村事件』だ。行き交う情報に惑わされ生存への不安や恐怖に煽られたとき、集団真理は加速し、群衆は暴走する。

これは単なる過去の事件では終われない、今を生きる私たちの物語。



—物語—

大正デモクラシーの喧騒の裏で、マスコミは、政府の失政を隠すようにこぞって「…いずれは社会主義者か鮮人か、はたまた不逞の輩の仕業か」と世論を煽り、市民の不安と恐怖は徐々に高まっていた。そんな中、朝鮮で日本軍による虐殺事件を目撃した澤田智一（井浦新）は、妻の静子（田中麗奈）を連れ、智一が教師をしていた日本統治下の京城を離れ、故郷の福田村に帰ってきた。同じ頃、沼部新助（永山瑛太）率いる葉売りの行商団は、関東地方へ向かうため四国の讃岐を出発する。長閑な日々を打ち破るかのように、9月1日、空前絶後の揺れが関東地方を襲った。木々は倒れ、家は倒壊し、そして大火災が発生して無辜なる多くの人々が命を失った。そんな中でいつしか流言飛語が飛び交い、瞬く間にそれは関東近縁の町や村に伝わっていった。2日には東京府下に戒厳令が施行され、3日には神奈川に、4日には福田村がある千葉にも拡大され、多くの人々は大混乱に陥った。福田村にも避難民から「朝鮮人が集団で襲ってくる」「朝鮮人が略奪や放火をした」との情報もたらされ、疑心暗鬼に落ち入り、人々は恐怖に浮足立つ。地元の新聞社は、情報の真偽を確かめるために躍起となるが、その実体は杳としてつかめないでいた。震災後の混乱に乗じて、亀戸署では、社会主義者への弾圧が、秘かに行われていた。そして9月6日、偶然と不安、恐怖が折り重なり、後に歴史に葬られることとなる大事件が起きる――。



—CAST—

井浦新（澤田智一 役）

1974 年 9 月 15 日 東京都生まれ。映画「ワンダフルライフ」(98/是枝裕和監督)に初主演。以降、映画を中心にドラマ、ナレーションなど幅広く活動。アパレルブランド「ELNEST CREATIVE ACTIVITY」のディレクターを務めている。近年は、「MINI THEATER PARK」の活動や、映画館のない地域へ映画を届ける『井浦新 自選映画上映会』などを主催。



田中麗奈（澤田静子 役）

1980 年 5 月 22 日生まれ、福岡県久留米市出身。映画「がんばっていきまっしょい」(98/磯村一路監督)で初主演し、日本アカデミー賞新人俳優賞など多数受賞。映画「はつ恋」(00 年/篠原哲雄監督)、映画「幼な子われらに生まれ」(17 年/三島有紀子監督)でも多数の女優賞を受賞。映画・ドラマ・舞台など幅広く活動している。



永山瑛太（沼部新助 役）

2002 年に『青い春』でスクリーンデビュー以降、数々の映画、ドラマに出演。近年では短編映画で自身初の監督を務めたり、「永山瑛太、写真」と題し、写真家として展覧会を開催するなど多才なアーティストとして活躍の場を拡げている。



東出昌大（田中倉蔵 役）

1988 年 2 月 1 日生まれ、埼玉県出身。2012 年に『桐島、部活やめるってよ』(吉田大八監督)で俳優デビューし、第 36 回日本アカデミー賞新人俳優賞等を受賞。近年の出演作として、『寝ても覚めても』(18/濱口竜介監督)、『コンフィデンスマン JP』シリーズ (19~22/田中亮監督)、『スパイの妻』(20/黒沢清監督) などがある。22 年~23 年にかけては、『天上の花』(22/片嶋一貴監督)、『とべない風船』(23/宮川博至監督)、『Winny』(23/松本優作監督) など、相次いで主演作品が公開された。



コムアイ（島村咲江 役）

声や身体を主に用いて表現するアーティスト。最近の水にまつわる課題を学び広告する部活動『HYPE FREE WATER』をビジュアルアーティストの村田実莉と立ち上げる傍ら、俳優としても活動している。Netflix ドラマシリーズ『Followers』『dele』など。音楽ユニット・水曜日のカンパネラの初代ボーカル、2021 年 9 月脱退。



木竜麻生（恩田楓 役）

1994年7月1日生まれ、新潟県出身。2014年の大森立嗣監督『まほろ駅前狂騒曲』で映画デビュー。2018年に、瀬々敬久監督の『菊とギロチン』で映画初主演。また、同年の『鈴木家の嘘』（野尻克己監督作）でヒロイン役をつとめ、この2つの作品の演技が評価され、キネマ旬報ベスト・テン新人女優賞ほかその年の映画新人賞を数多く受賞。2022年には主演映画『わたし達はおとな』（加藤拓也監督）にて、北京国際映画祭フォーワードフューチャー部門にて最優秀女優賞を受賞。近年の主な作品に『ヘルドックス』（22／原田真人監督）、『Winny』（23／松本優作監督）がある。



向里佑香（井草マス 役）

1990年9月24日生まれ。東京都出身。近年の主な映画出演作品に『原発をみにいくよ』（20／村上隆監督）、『そして、バトンは渡された』（21／前田哲監督）、『愛なのに』（22／城定秀夫監督）などがある他、江戸時代の日本を描くハリウッドの新作ドラマ「将軍（原題：Shōgun）」にも出演が決定している。



カトウシンスケ（平澤計七 役）

2001年に「ほぞ」で初の映画出演を果たす。2016年に公開された『ケンとカズ』では第31回高崎映画祭にて最優秀新進俳優賞を受賞し、演技派俳優として注目を集め、ドラマ・映画・舞台・CMと幅広い分野で活躍している。



松浦祐也（井草茂次 役）

1981年4月14日生まれ、埼玉県出身。2004年にスクリーンデビュー以降、多数の作品に出演。2019年には片山慎三監督の長編デビュー作『岬の兄妹』にて主演を務める。近年の映画出演作品に『由宇子の天秤』（20／春本雄二郎監督）、『ONODA 一万夜を越えて』（21／アルチュール・アラリ監督）、『コンビニエンス・ストーリー』（22／三木聡監督）、『"それ"がいる森』（22／中田秀夫監督）、『夜明けまでバス停で』（22／高橋伴明監督）など多数。



杉田雷麟（藤岡敬一 役）

2002年12月10日生まれ、栃木県出身。2017年より俳優活動を開始。2019年、映画『半世界』（阪本順治監督）で稲垣吾郎演じる主人公の息子役を演じ、第41回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞、第34回高崎映画祭最優秀新進俳優賞を受賞し、その後話題作への出演が続く。



ピエール瀧（砂田伸次朗 役）

電気グルーヴのメンバーとして音楽活動を続けながら、俳優としての顔も持つ。近年では Youtube や note と単独でも活動をしている。最近、note で連載していた「ピエール瀧の 23 区 23 時 2020-2022」を収録した書籍を発表した。



水道橋博士（長谷川秀吉 役）

1962 年 8 月 18 日生まれ、岡山県出身。大学卒業後の 1986 年に、ビートたけしに弟子入り。翌年、玉袋筋太郎と浅草キッドを結成し、漫才師、お笑いタレントとしての活動をスタート。2004 年には、浅草キッドの名義で著した「お笑い男の星座 2」が大宅壮一ノンフィクション賞にノミネートされるなど、文筆家としての評価も高め、多くの著書を出版している。2022 年には、れいわ新選組から参院選に出馬し、初当選。23 年 1 月に議員辞職。映画作品への出演はこれまで『SF ホイップクリーム』（02／瀬々敬久監督）、『ラブ&ピース』（15／園子温監督）などがある。



豊原功補（田向龍一 役）

1965 年 9 月 25 日生まれ、東京都出身。1982 年のデビュー以降、映画、TV ドラマ、舞台など数多くの作品で活躍。2007 年「受験のシンデレラ」においてモナコ国際映画祭最優秀主演男優賞を受賞する。主な出演作に『WiLd LiFe』（97／青山真治監督）、『突入せよ！あさま山荘事件』（02／原田真人監督）、『亡国のイージス』（05／阪本順治監督）、『南極料理人』（09／沖田修一監督）、『おかえり、はやぶさ』（12／本木克英監督）、『ヤクザと家族』（21／藤井道人監督）などがある。2018 年には、シンセカイ合同会社を設立。第 1 回プロデュース作品に『ソワレ』（20／外山文治監督）がある。



柄本明（井草貞次 役）

1976 年に自身で劇団東京乾電池を旗揚げ。1998 年には『カンゾー先生』で第 22 回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞受賞。映画のみならず、舞台やテレビドラマにも多数出演し、2011 年に紫綬褒章、2019 年には旭日小綬章を受勲した。



—森達也×森直人(映画ライター)対談—



「次は絶対、劇映画を撮りたいという気持ちが高まりました」（森達也）

——（森直人）『福田村事件』、素晴らしかったです。「劇映画」長編デビューへの道のり、長かったですね（笑）。これだけ良い映画だと達成感がすごくあるのではないのでしょうか？

（森達也）そんな余裕はなかったです。もう大変でした。初号試写が終わったあとも、まだ変更や細かい調整を続けてたから、「早く終わってくれ」って思いながら走り続けてる気分でした。直人さんはよくご存じだと思うけど、僕はそもそも立教（大学）時代には 8mm で自主映画をこつこつ撮っていたわけです。

——いわゆる「立教ヌーヴェルヴァーグ」の渦中にいた。黒沢清監督がパロディアス・ユニティというサークルで撮った『しがらみ学園』（80／撮影・照明は万田邦敏）に主演されていたり。

そう。当時はドキュメンタリーなんか全然眼中になくて、自分で脚本を書いて、監督もして、役者もやって。とにかく映像作品としてはドラマしか頭になかった。でも入社した番組制作会社がたまたまドキュメンタリー専門だったから、その延長の成り行きで今に至っているだけなんですよね。でもおそらく多くの人が思うほど、劇映画とドキュメンタリーに大きな違いはない。映像素材のモンタージュという意味では同じだから。

——そもそも達也さんのドキュメンタリーはフィクショナルな作品組成の志向が強いように思います。スターサンズの河村光庸プロデューサー（2022年6月11日に急逝）と組んだ『i-新聞記者ドキュメント-』（19）も、元々は劇映画でのオファーだったらしいですね。

だから次は絶対、劇映画を撮りたいという気持ちが高まりました。『i-新聞記者ドキュメント-』のあと、まさにそのタイミングで福田村事件を映画化できないかなと思い始めた。実はテレビ時代にこれをドキュメンタリーにしようと動いたことがあるんですけど、結局頓挫して、以来自分の中でずっと塩漬けにしてきたテーマだったんです。「そうか、自分にはこれがあるぞ」と思い立ち、実際に企画書を持って会社回りを始めたんですよ。

「福田村事件という題材に必然的に引き寄せられた」（森達也）

——クレジットでは脚本も務められた荒井晴彦さんの企画になっていますが、この経緯は？

そこは日付も明確で 2020 年 2 月 4 日なんですけど、『i-新聞記者ドキュメント-』がキネマ旬報ベスト・テンで文化映画部門の第 1 位に選出されて、同じ年に荒井さんの監督作『火口のふたり』が日本映画総合の第 1 位で、授賞式で一緒になったんです。同じ控え室で、「ああ、荒井晴彦がいるぞ」とか思って。それまで面識なかったんですけど。

——ガチの初対面だったんだ。意外ですね。

やっぱりこっちはドキュメンタリーの人間なので、劇映画の人たちとそんなに付き合いがないんですよ。もちろん荒井さんの名前は存じ上げていたので、最初は「なるべく目を合わせないようにしよう」と思ってたんだけど（笑）。まずはこちらから軽く挨拶したのかな。そうしたら荒井さんが「お前、福田村事件を映画にしたいって考えてるのか？」って言うんですよ。「ええ、そうですよ」って答えたら、「俺たちもそう思っているんだよ」って。じゃあ一緒にやろうかと。

——そこで異質の場所にいたお二人が合流したと。美しい話じゃないですか。荒井さんの「俺たち」とは脚本チームの佐伯俊道さん、井上淳一さんということですか。

最初は荒井さんと井上さんから企画がスタートしたと聞いています。当初は『戦争と一人の女』（13）からの流れで、井上さんが監督する予定だったようですから。二人がなぜこの事件を知ったかといえば、中川五郎さんの楽曲「1923 年福田村の虐殺」をたまたま聞いたから。そして中川さんは、僕の著作『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』（03／晶文社・ちくま文庫）の中に入っていたエッセイ（「ただこの事実を直視しよう」）を読んで、福田村事件を知ったと公言されていて。だから荒井さん側も僕のことが気になっていたみたいで、すでに出来上がっていたスタッフたちの座組を受け入れてくれるなら、監督として迎え入れたいということになりました。

——中川五郎さんのプロテストソングは「関東大震災朝鮮人差別三部作」と銘打たれた連作の最初に作られた一曲ですね。1923 年（大正 12 年）9 月 6 日の福田村事件へのアプローチは、森達也監督のフィルモグラフィ―解題でもある著作『FAKE な平成史』（17／改題『FAKE な日本』角川文庫）から、その源流を求めていくような流れかなとも思います。最初に関心を持たれたのは？

『A2』（01）を公開した翌年の 2002 年、千葉県野田市で慰霊碑を作るという小さな記事がたまたま目に止まり、すぐに現地に行ったけど、ほとんど資料がない。でも調べられる範囲で概要はわかってきた。当時の僕はテレビディレクターでもあった。番組にできなかと考えて各局の報道担当の人にはプレゼンしたんだけど、被差別部落問題に朝鮮人虐殺という二つのタブーが重なるわけで、結果としてはどの局もダメでした。

でもずっとあきらめきれなくて。……僕にとっての大きな転機というか原点は、最初の映画『A』（97）なんです。最初にオウム真理教の施設に入ったとき、個々の信者たちが穏やかで優しいことにびっくりしました。でも組織としてはとても凶悪な事件を起こした。こういった例は世界中の歴史において、至るところで見られますよね。なのに、例えばナチスの罪と真摯に向き合い続けているドイツなどに比べると、日本はむしろ自分たちの失敗から目を背けたがっているように思える。人間とはどういう生き物なのか……それを個と集団の相克から検証し続けることは僕のライフワークです。だから福田村事件にも必然的に引き寄せられていったのかもしれない。

「福田村事件という題材に必然的に引き寄せられた」（森達也）

——物語設計についてお聞きします。ドラマとしては群像劇で、数ブロックの人間模様がだんだん交じり合っていく構成。様々な異なる社会階層が関係していく物語でもあります。まず朝鮮から日本に戻ってきた澤田智一（井浦新）と静子（田中麗奈）。このご夫妻に実在のモデルはいるんですか？

いません。最初に決めた大前提としては、福田村の村人たちと香川県からやってきた行商団……つまり加害者側と被害者側の両方をしっかり描くということでした。あとは物語を転がすための要素を足していった。メディアの問題は絶対入れたいと思っていました。史実をベースにしながらも、こちらの想像力で膨らませていくというのはフィクションならではの組み立て方ですから、非常に面白い作業でしたね。ドキュメンタリーとは違う筋肉の使い方というか。ただそのぶん、個々の見解の相違が露骨に出るので脚本チームの中ではずいぶん揉めました。

——澤田智一は元教師なんだけど、もはや絶望していて、慣れない農業で暮らしていこうとして

いる。なぜ絶望したか。それは4年前、つまり1919年に、彼は提岩里教会事件の現場に通訳として居た。そこで日本の憲兵たちによる朝鮮人虐殺を目の当たりにしてしまったと映画の半ばで自ら語り出します。

こういった福田村事件に至る歴史的なトピックが重層的に組み込まれているのが特徴ですね。例えば劇中で新聞記者の恩田楓（木竜麻生）の口から「独立萬歳運動」として言及されるのは1919年の三・一独立運動です。ここで日本統治下にあった朝鮮側が酷い弾圧を受けたということで、その復讐が起こるかもしれない、という恐怖心が関東大震災の発生後に流布したフェイクニュースのベースになっている。

やっぱり歴史は「点ではなく、線で捉える」ことが重要ですから。朝鮮側から仕返しされるかもしれないという可能性についての怯えは澤田も多少なりとも持っていて、こういった双方の負の連鎖は1910年の日韓併合からどんどん大きくなっていったはず。脚本作りに関しては、佐伯俊道さんが資料魔なので、膨大な関連書籍を読み込んでから叩き台を出してくれました。そこからチームで意見を出し合って詰めていった感じですね。

——澤田にしろ、大正デモグラシーを唱える福田村村長の田向（豊原功補）にしろ、リベラル派の男たちをさほど肯定的に描いていないのが面白いなと思って（笑）。

荒井さん風に言うとな「プチブル的」ってタイプになるのかな。彼らは弱いし、中途半端だし、自分勝手だし。澤田は終盤でようやく覚醒するように描いているけど、高い理想を掲げるわりに現実的には無力。別に揶揄しているわけじゃなくて、今の時代に至ってもこれが大方のリアルな実態じゃないかなと思っています。

——そんな澤田の的確な批判者が、妻の静子ですよね。彼女は「東洋拓殖」（明治41年から昭和20年まで朝鮮の京城府や満州などにあった日本の国策会社）の重役の娘という設定。静子は澤田が「いつも見てるだけ」＝傍観者であることを指摘しますね。また澤田の性愛的な不能と、政治的な無力を重ねていますよね。

性愛的なモチーフに関しては、ほぼ荒井さんのアイデアです。僕からそういう発想は絶対出てこない。村人の井草家のエピソードも荒井さんかな。こちらは佐伯さんかも。大ベテランお二人です。義父・貞次（柄本明）と息子の妻・マス（向里祐香）の秘密の関係。例えば澤田が妻の不貞行為を目の当たりにして、その帰り道に彼女をおんぶする感覚も、僕にはわからない。そういったディテールの描写に関してはずいぶん喧嘩もしたんですけど、まあこれについては、今はまだ言いません。今回は元・若松プロのグループに放り込まれた転校生のような立場なので。いずれにせよ、これまでのドキュメンタリーとの違いは、劇映画云々というより、「一人で作るか、チームで作るか」の違いだったなという気がしますね。

「キャスティング論理は大島渚監督の『戦場のメリークリスマス』を連想させる」（森直人）

——キャスティングがまた絶妙でしたね。冒頭の列車のシーンで澤田夫妻と乗り合わせているのが、シベリア出兵で夫を亡くし、福田村で豆腐屋を営んでいる島村咲江。演じるコムアイさんには目を瞠りました。

めちゃくちゃ良かったですね。キャスティングに関しては僕も心底満足していて、適材適所以上というか、最強のフォーメーションが組めた気がします。水道橋博士に関しては僕が発案したのかな。最初は台詞回しもぎこちなかったんだけど、撮影しながらどんどん良くなってきた。まあ彼本人の政治信条とは真逆のキャラクター（在郷軍人会の分会長・長谷川）をお願いしたから、ずいぶん消耗したみたいで、そこは申し訳なかったなって。

——怪演でした。キャスティング論理は大島渚監督の『戦場のメリークリスマス』(83)を連想させるんですよ。ミュージシャンや芸人といった他分野で活躍されている人をプロの座組みに投入することで、異例の化学反応やエネルギーが発生している。

なるほど。そこはチームの意見を素直に聞き入れたからこそ実現できた部分ですね。僕としてはプロの役者さんの凄さを目の当たりにしたのが大きかった。澤田が提岩里教会事件のことを初めて静子に告白するシーンも、井浦さんと麗奈さんが迫真の感情を作ってくれて。利根川の渡し守の倉蔵を演じてくれた東出昌大さんなんか、撮りながら惚れ惚れしちゃいましたね。倉蔵は福田村の中でもアウトサイドに近い立ち位置に居る男ですが、東出さんには野性的な色気や浮世離れたスケール感があって、ハマリ役だったと思います。ちなみに東出さんは今回の出演に関してのアプローチも早かった。「森達也が劇映画を撮る」って聞きつけて、向こうからすぐ連絡をくれたんです。

「あくまでフィクションとは言っても、史実のエッセンスを損なわないように、とりわけ大切に作っていききました。」(森達也)

——倉蔵と咲江(コムアイ)は「村の論理」からはみ出す存在でもあり、東出さんとコムアイさんのコンビネーションも素晴らしかった。達也さんが絶対入れたいと言ったメディアパートは「千葉日日新聞」の編集部という形になっています。木竜麻生さん演じる記者の恩田楓など、この造形はフィクションですか？

命名の由来として東京日日新聞や千葉日日新報という新聞は当時あったけど、千葉日日新聞はフィクションです。あとこのパートには多少映画の嘘があって、おそらく関東大震災が9月1日に起きた直後の段階では千葉では暴動の報道は回っていない。内務省が各地の警察署に下達した文書がデマゴギーの源泉なので、それを裏取りせず真に受けた他の地方紙のほうが早かったはずですが、今回はあえて当時の全体的な反応を凝縮する形にしました。僕としては編集長と若い女性記者がやり合うというイメージが欲しかったんです。ここに関しては今の時代と正しく重なる部分だと思ったので、現代の光景と同質に見えるように描きたかった。千葉日日新聞の編集長・砂田(ピエール瀧)も、「ジャーナリズムは権力を監視する」という本分を当初は守っていたはずなんです。これは映画には表立って出てこないけれど、幸徳秋水と堺利彦らが創刊した反権力的スタンスの平民新聞にかつて勤めていたというプロフィールです。でもそれでは飯が食えなくなるという現実と直面して迎合していった。そして今、政治権力の不首尾から起こった朝鮮人たちの暴動というデマ報道をわざわざ広める立場となり、その欺瞞に恩田楓がまっすぐ異議を申し立てる。メディアのあるべき姿に向けた対立構造をわかりやすく描いています。

——そして香川県からやってくる菓売りの行商団の面々。彼らは福田村事件の犠牲者になるわけですが、登場人物でいうと、ここが最も史実に忠実な部分ということになりますよね。

名前は変えています。ただ行商団の編成に関しては史実通りです。男女比もね。彼らに向けられた差別意識こそが、この作品のコアなので。彼らは被差別部落の出で、映画の中でも自分たちのことを「エタ」だと称する。ここで水平社宣言(1922年)も絡んでくる。エピソード自体は創作も多いですが、リサーチもできる限り丹念にやりました。例えば行商団の面々が朝鮮人でないことを証明するために、村人から歴代の天皇陛下の名前を言わされたとかは裁判の証言として残っています。飴売りの女性からもらった朝鮮の扇子などは佐伯ワールドの賜物ですね。あくまでフィクションとは言っても、史実のエッセンスを損なわないように、とりわけ大切に作っていききました。

「僕がこの映画で最も惹かれるポイントは「視点の多さ」なんです」(森直人)

——リーダー格の新助(永山瑛太)は高潔な人物ですね。朝鮮人に対しては行商団の中でも個々の認識差があって、「弱者がさらなる弱者を叩く」構図も見える。一人一人の視点を全部変えてい

るのが凄いなと思いました。僕がこの映画で最も惹かれるポイントは「視点の多さ」なんです。

群像劇だからこそポリフォニー（多声性）は重要です。そこは意識しました。もちろん行商団だけでなく福田村の人々に関してもそうです。

ごく一般的な映画の作りとしてこの史実をとりあげるとき、被害者側にウェイトを当然のように置くと思います。だって感情移入しやすいから。その結果として凶悪な加害者と善良な被害者の構図が完成する。でもそれは僕の意図とはまったく違います。ある条件が重なったとき、善良な人たちが善良な人を大量に殺す。そこはまさに『A』の撮影を通して僕が学んだことなので。最初にも言ったように、人間は冷酷で残虐だから凶暴な行動に出るわけではない。そもそも村人たちの多くにとっては「差別」の前に、自分の家族や仲間が殺されたらたまらないという「自衛」の意識なんです。集団心理の混沌をカテゴライズで区切らず、どれだけ個人と個人の衝突や葛藤として描けるか。そこが最大の勝負になると思っていました。

——「澤田夫妻」「福田村の人々」「千葉日日新聞」「香川からの行商団」、さらに5つ目、もうひとつ東京のブロックがある。ここで実在の劇作家、平澤計七（カトウシンスケ）が登場します。日本のプロレタリア演劇の祖と呼ばれる人物ですが、関東大震災が起こって、9月3日に社会主義者たちが亀戸警察に逮捕されて殺害された「亀戸事件」も絡んできますね。

この補助線も必要だと思いました。「関東大震災朝鮮人虐殺事件」という呼称が一般には定着しているけど、実際は日本人や中国人もたくさん殺されている。映画の中でも権力側は「鮮人や主義者」という言い方をしている。要するにアウトサイダーやマイノリティーと見做した人々を、権力はいっせいに排除しようとした。有名なのは大杉栄や伊藤野枝の甘粕事件（9月16日）だと思いますが、その前に起きた亀戸事件は意外に知られていない。戒厳令下の国家権力による不法弾圧の代表例として、ぜひこの映画には刻んでおきたかったんです。

「撮り方はそれこそドキュメンタリーの逆」（森達也）

——時代劇ですが、見事に空間が仮構されていましたね。撮影期間とロケ地についても教えてください。

去年（2022年）の8月から9月にかけて、一ヶ月くらいですね。基本、京都付近で合宿して撮りました。百年前の福田村を撮るには実際の現地じゃ無理ですからね。いろいろロケハンして、琵琶湖の支流を拠点にしつつ、東映や松竹の撮影所、あとは滋賀や京都丹後とか。

——カメラは桑原正さん。撮り方はそれこそドキュメンタリーの逆と言いますか、非常に端正なフィクションの作法を採用されていますよね。きっちりした画で律儀に切り返しをやって、的確なところで長回しになる、みたいな。『FAKE』なんか隠しカメラを仕掛けまくっていただけ（笑）。

いつもはカメラワークとかは二の次だから。特に僕のドキュメンタリーは、これまで基本的には自分で撮ってきましたから、原一男さんからは「美学がない」って批判されたりするほどです（笑）。でも桑原さんはわりとフィックスで撮ることが多い方だし、「いかにもドキュメンタリー監督の劇映画ですね」というイメージを思いっきり裏切るスタイルの方が面白いなと。ただ最後の虐殺に至る道すがらで、新助や倉蔵らが一緒に川沿いから神社の前に向かうところも含めて、できるだけ手持ちカメラで撮ってもらいました。

——デジタルカメラの機動力も豊かな緩急を形作っていたと思います。そしてクライマックスに至る流れ。茶店と神社の前から利根川へ。長い大虐殺、むごたらしい惨殺。よくここまで撮りきったなあと。

キツかったです。撮りながら本当にキツかった。しかも夏だし、尋常ではない暑さだったんですよ。直射日光にさらされながら、みんな熱中症にならないように気をつけて。尺としても虐殺シーンは40分あるんですよ。この映画の3分の1が虐殺。ある意味で祭りのような高揚感もあったはずなので、ポスプロの段階では音楽の鈴木慶一さんとご相談して、和太鼓をフィーチャーしたり、禍々しく盛り上げていこうと。

「コロナ禍や、あるいはロシアからのウクライナ侵攻にまつわる諸々の事象を重ね合わせる感想も出ると思う」(森直人)

——そう言えば虐殺までのカウントダウンを示すように、途中から日付がテロップで出てきますね。

9月1日以降ですね。そこも意見が分かれたところなんですけど、映画の構成としては日常描写がゆっくり始まって、関東大震災をきっかけに圧力が高まってって、虐殺というカタストロフィーに到達してしまう流れなので。緊張感を演出するものとして、時制を明示するのは一つの有効な手だなと思いました。

——情報と偏見が分断を生むメカニズムについて、おそらくコロナ禍や、あるいはロシアからのウクライナ侵攻にまつわる諸々の事象を重ね合わせる感想も出ると思うんですよ。史実をベースに政治力学や集団ヒステリーの「構造」を描き出した意味で、映画『福田村事件』はジョージ・オーウェルの寓話だと思います。

そう言ってもらえるのはすごく嬉しいですね。今回はドキュメンタリーでは撮れないものを映画にしたいという思いが強かったので、劇映画だからこそ史実を補完する形で普遍化できたのかな。『福田村事件』で描いたことは、まさに今も起こり続けていること。新聞からラジオ、テレビ、インターネットとメディアは進化しているけど、我々のリテラシーは本当に上がっているのか。僕らは情報の危うさに対してもっともっと配慮しなきゃいけない。

——ラストショットを行商団の少年、信義（生駒星汰）の顔のアップで終わった理由は？

これしかないと思った。劇映画の整合性からすると変かもしれないし、反対意見も多かったけど、押し切りました。事件が終わってから故郷に戻ってきて、小さな恋のパートナーである少女ミヨ（葉山さら）と再会し、呆然と立ち尽くす信義。それ以外のショットではこの映画は終われない。

——未来形のラストですよ。これは終わっていない物語なのだ、というイメージ。

ああ。直人さんはそう観たの？ なるほど。未来形か。もちろんその解釈でいいんです。観た瞬間に映画は観た人のものになります。なるほど。僕はそこまで考えていなかったかも。でも映画って自分の無意識を形にするものなので。きっとその通りですよ。一番若い13歳の彼が、無垢な目で何を見てきたか。これからも人生は続く。そこに映画を観てくれた皆さんが思いを馳せていただけたらな、と。

—STAFF—

監督： 森達也

1956 年 5 月 10 日、広島県呉市生まれ。95 年の地下鉄サリン事件発生後、オウム真理教広報副部長であった荒木浩と他のオウム信者たちを被写体とするテレビ・ドキュメンタリーの撮影を始めるが、所属する制作会社から契約解除を通告される。最終的に作品は『A』のタイトルで 98 年に劇場公開され、さらにベルリン国際映画祭など多数の海外映画祭に招待されて世界的に大きな話題となる。



99 年にはテレビ・ドキュメンタリー「放送禁止歌」を発表。2001 年には映画『A 2』が山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞を受賞。映画作品は他に『3 1 1』(11)、『FAKE』(16)、『i ～新聞記者ドキュメント』(19)などがある。

2011 年「A3」(集英社インターナショナル)が講談社ノンフィクション賞を受賞。他の著作に、「放送禁止歌」(光文社智恵の森文庫)、「職業欄はエスパー」「いのちの食べかた」「死刑」「クォン・デ～もう一人のラストエンペラー」(角川文庫)、長編小説作品「チャンキ」(論創社)、「すべての戦争は自衛から始まる」(講談社文庫)、「U 相模原に現れた世界の憂鬱な断面」(講談社現代新書)などがある。近著は「千代田区一番一号のラビリンス」(現代書館)。

企画・脚本：荒井晴彦

1947 年東京都生まれ。季刊誌『映画芸術』編集・発行人。若松プロの助監督を経て、1977 年『新宿乱れ街 いくまで待って』で脚本家としてデビュー。キネマ旬報脚本賞を『W の悲劇』(1984)、『待ち濡れた女』『囁む女』『リボルバー』(1988)、『ヴァイブレーション』(2003)、『大鹿村騒動記』(2011)、『共喰い』(2013)で受賞。橋本忍に並んで最多受賞となる。他、『神様のくれた赤ん坊』(1979)、『赫い髪の女』(1979)、『遠雷』(1981)、『嗚呼！おんなたち 猥歌』(1981)、『キャバレー日記』(1982)、『ダブルベッド』(1983)、『海を感じる時』(2014)、『さよなら歌舞伎町』(2015)など多数の脚本を手がける。『身も心も』(1997)で初監督。監督 2 作目の『この国の空』(2015)で読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞。3 作目の『火口のふたり』(2019)でキネマ旬報ベスト・テン 1 位、主演女優賞。ヨコハマ映画祭作品賞、最優秀新人賞(瀧内公美)、特別大賞を獲得。4 作目の『花腐し』が 11 月に公開。

脚本：佐伯俊道

1949 年東京都文京区生まれ学習院大学文学部哲学科中退。1971 年に東京ムービー(現トムス・エンタテインメント)に入社し、演出助手としてアニメ制作に携わる。1972 年に東映東京撮影所と契約。演出部に所属。その後、東映東京撮影所契約者労働組合(東契労)の書記長、委員長に就任し、組合の専従となる。助監督として内藤誠、野田幸男、石井輝男、鈴木則文らに師事。1982 年フリーとなり脚本家に転身し、主に日活ロマンポルノ、テレビドラマなどを手掛ける。主な映画作品——『連続殺人鬼 冷血』『夕ぐれ族』『悪魔の部屋』『夜の哀しみ』『でべそ』『スクールウォーズ HERO』などテレビ作品として『白旗の少女』『美空ひばり物語』『実録小野田少尉 遅すぎた帰還』『象のいない動物園』など。

プロデューサー・脚本：井上淳一

脚本家・映画監督。1965年愛知県生まれ。早稲田大学卒。大学在学中より若松孝二監督に師事し、若松プロダクションにて助監督を勤める。90年、『パンツの穴・ムケそでムケないイチゴたち』で監督デビュー。その後、荒井晴彦氏に師事し、脚本家に。2013年、『戦争と一人の女』で監督再デビュー。数多くの海外映画祭に招待される。16年、福島で苦悩しながら農業を続ける男性を追ったドキュメンタリー『大地を受け継ぐ』を監督。フィクション、ノンフィクション、監督、脚本に関わらず、幅広い活動が続けている。19年、監督作『誰がために憲法はある』で平和・協同ジャーナリスト基金賞を受賞。脚本作に『止められるか、俺たちを』『REVOLUTION+1』など。最新脚本・監督作の『青春ジャック 止められるか、俺たちを2』が来春公開。

プロデューサー：片嶋一貴

映画監督。プロデューサー。株式会社ドッグシュガー代表。若松孝二監督作品『我に撃つ用意あり』で若松プロに参加。95年『クレイジー・コップ 捜査はせん!』で監督デビュー。翌年からプロデューサーとして仕事のフィールドを広げ、サブ監督『ポストマン・ブルース』鈴木清順監督『ピストルオペラ』『オペレッタ狸御殿』など個性的な作品にかかわる。11年の監督作『アジアの純真』では、その過激なテーマからロッテルダム映画祭など海外映画祭で物議をかもし、一方、「白黒の奇跡」と評される。17年4時間超の長篇大作『いぬむこいり』を、19年初のドキュメンタリー作品『M／村西とおる狂熱の日々』を、22年文芸映画『天上の花』を監督。エッジの効いた映画づくりを続けている。他のプロデュース作品に『戦争と一人の女』(12)『子どもたちをよろしく』(20)『zk／頭脳警察 50 未来への鼓動』(20)『GOLDFISH』(23)などがある。

統括プロデューサー：小林三四郎

1958年、新潟県柏崎市生まれ。大学在学中より演劇に関わり、その後竹内統一郎が主宰する劇団「秘宝零番館」に入団。中心俳優として活躍する。数多くのプロデュース演劇、映画に出演。あがた森魚氏に函館港イルミナシオン映画祭に誘われ、番組を担当することになる。それを機に06年に映画製作・配給の太秦株式会社の設立に参加し代表となる。精力的に国内外劇映画、ドキュメンタリー作品を製作、配給している。社会的な題材をもとにした作品を多数世に出している。

音楽：鈴木慶一

1951年8月28日、東京生まれ。1970年頃より音楽活動をスタートさせ、あがた森魚、はっぴえんど等のサポート他、数多くの録音セッションを経験する。72年に、"はちみつばい"を結成。日本語によるロックの先駆的な活動を展開しアルバム『センチメンタル通り』をリリース。はちみつばい解散後、ムーンライダーズを結成。76年、鈴木慶一とムーンライダーズ名義のアルバム『火の玉ボーイ』でデビューし現在も精力的に活動が続けている。バンド活動の傍ら、アイドルから演歌まで幅広い楽曲提供とプロデュースを行い、CM音楽、『Mother』、『Mother2』などのゲーム音楽、映画音楽でも人々に大きな影響を与えている。北野武監督の『座頭市』、『アウトレージビヨンド～最終章～』で日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。俳優としての顔も持ち、映画やドラマへの出演も多数。

—キーワード解説—

◆関東大震災と虐殺事件

震災によって壊滅的な被害を被り民心と社会秩序がひどい混乱に陥ったことを受けて内務省は戒厳令を宣告し、各地の警察署に治安維持に最善を尽くすことを指示した。しかし、そのときに内務省が各地の警察署に下達した内容の中で「混乱に乗じた朝鮮人が凶悪犯罪、暴動などを画策しているので注意すること」という内容があった。この内容は行政機関や新聞、民衆を通して広まり、朝鮮人や、間違われた中国人、日本人が殺傷される被害が福田村に限らず発生した。朝鮮人と誤解されて中国人が犠牲となった事件や、沖縄・秋田・三重出身者が犠牲となった検見川事件や秋田出身者が犠牲となった妻沼町事件など地方出身の日本内地人も殺された。また朝鮮人犠牲者以外にも社会主義や無政府主義の指導者を殺害したケースもあった。

◆部落解放運動

明治時代から現在に至る被差別部落の解放運動。幕藩体制下で最下層の賤民（穢多・非人）として極度の差別と抑圧のもとにあえいでいた被差別部落の人びとは、1871年の解放令で制度上は解放されたが、社会的・経済的・身分的差別はなくならなかった。大正デモクラシーの発展に伴い、1922年全国水平社が結成され、人間の尊厳と平等・自由を掲げ、一切の抑圧や差別と闘い、すべての人間解放をめざす決意を表明。社会運動とも結合し'25年第4回大会以後次第に無産運動や社会主義運動と連携し全国的統一組織として成長。第二次世界大戦後、'46年部落解放全国委員会が発足し運動を推進。'55年部落解放同盟と改組。'60年以降独占資本を差別の元凶とし、平和・独立・民主主義を実現する運動を進めたが。内部で対立がoccur。反主流派は1970年に部落解放同盟正常化全国連絡会議を結成、のち全国部落解放運動連合会に改組。

◆水平社宣言

——全文

全国に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてみた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勵むかの如き運動は、かえって多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血

は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勤る事が何んであるかをよく知ってゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光りあれ。

大正十一年三月三日（1992年3月3日）

◆穢多（えた）

「穢多（えた）」は、中世から近世の被差別身分の呼称で、被差別身分として固定化されたのは、江戸時代以降のこと。「穢多」の称が一般化した後も、関西などでは「かわた」、東日本では「長吏」などと自称した。「穢多」の史料上の初見は、弘安年間（1278～88）の『塵袋』で、「清目」の異称とする（「清目」は「河原者」の異称）。1444（文安元）年の『下学集』には、「ゑた」の項に「屠児（とじ）也、河原者」とあり、「穢多」は「屠児」「河原者」と同義。

「屠児」は生類を屠（ほふ）ることを生業とした人々の呼称で「屠者（としや）」ともいう。中世において「穢多」とは、掃除や葬送、土木工事、斃牛馬（へいぎゅうば）の処理や皮革業など、「ケガレ」を清める仕事を担っていた「河原者」の異称であった。戦国時代になると、皮革業者などが戦国大名に従属するようになっていった。織田・豊臣時代の太閤検地では、「穢多」は「かわた」などの名称で把握されることになる。「かわた」とは「皮田・皮多」などとも記され、もとは皮革生産を担う職人や商人のことをさした。江戸時代には、身分として固定化されていくに従い、「かわた」ではなく次第に「穢多」の称が一般的になる。「穢多」身分の人々が定住した村を、「穢多村」などと呼び（自称は「かわた村」「役人村」など）、斃牛馬の処理、皮革業、刑吏の下働きや下級警察業務などに従事させた。「穢多」身分を統括した頭を「穢多頭」と呼び、そのなかでも江戸に居住した「弾左衛門」は最も勢力があり、東日本の広範囲の「穢多」を支配した。幕末には、「穢多」の称の撤廃を求める嘆願書が各地で提出されている。1871（明治4）年の「解放令」によって、「穢多」の称は廃されたが、現代においても差別語として用いられることがある。

◆提岩里教会事件（ていがんりきょうかいじけん）

1919年4月15日、日本統治下の朝鮮京畿道水原郡郷南面提岩里（現在の華城市郷南邑提岩里）で、三・一独立運動の最中に生じた事件。暴動を指揮した29名の朝鮮人が殺害され、近辺の死者は1000名を越したといわれている。三・一独立運動の余波を受けて、全羅道を除く朝鮮半島全土で朝鮮人による暴動（朝鮮騒乱）が発生した。4月上旬には京畿道でも暴動が発生し、憲兵駐在所・警察署のみならず民家に対しても破壊や放火が行われ、日本人が避難する事態となっていた。4月13日に朝鮮軍歩兵第40旅団から暴徒鎮圧の命令を受けた有田俊夫中尉が指揮する歩兵11人が発安（郷南面）に到着した。有田中尉は提岩里の住民から暴動を起こしているのはキリスト教徒、天道教徒であるとして、その殲滅を

要請され、朝鮮軍からの暴動鎮圧の指令を匪賊討伐と解して、首謀者たちの巢窟を滅ぼすことで禍根を断つことを決心し、暴動の首謀者である天道教、キリスト教の信者の 18 歳以上 50 歳以下の男性 20 余名と妻女 1 名を集めて射殺または刺殺した。在京城カナダ人宣教師フランク・ウィリアム・スコフィールドや AP 通信に特別採用されたアルバート・テイラーたちにより、事件は日本軍による虐殺事件として世界中に報道された。米国領事や英国領事らも本国に事件を報告すると日本批判の世論が高まり、米英から朝鮮統治の改善が日本に要請され、日本の朝鮮統治が「武断政治」から「文化政治」に転換する遠因となった。

◆並川市場事件（天安事件）

三一独立運動は、運動はまずソウル、平壤、大邱、開城などの主要都市で始められ、ソウルではパゴダ公園に集まった学生たちが正午の鐘を合図に行動を開始した。独立宣言書の朗読を終えると太極旗（大韓帝国時代の国旗）をうちふり〈独立万歳〉を高唱しながら街頭に出、数万の群衆が参加する大規模なデモとなった。3 月中ごろからは朝鮮全土に運動が拡大した。日本の支配層はこの運動を徹底的に弾圧。憲兵・警察のほかに正規軍をも投入した鎮圧作戦によって、4 月 1 に起きた並川市場事件（天安事件）では、並川市場でデモ隊 20 名射殺、朝鮮のジャンヌ・ダルクといわれた柳寛順が逮捕され獄死した。この運動は多くの犠牲者を出して終わったが、その影響は大きく、中国の五・四運動をはじめ被抑圧民族による反植民地運動の先駆けとなった。

◆シベリア出兵

1918～22 年にかけて、「革命軍によって囚われたチェコ軍団を救出する」を名目に、1917 年のロシア革命により共産主義の台頭を恐れた日本、アメリカ、イギリス、イタリアなどが、シベリアに軍隊を送った干涉戦争。1919 に、イギリス、フランスの両国は、革命政権転覆の計画は不可能になったことで撤兵を決定、アメリカもチェコ軍団の引揚げ完了を機に 1920 年にシベリア撤退を決定した。日本の原敬内閣は、列国の撤兵後も出兵目的を居留民保護とロシア過激派が朝鮮や満州に影響力を伸ばすことの防止に変更することで駐兵を継続しようとした。そのためアメリカなどから日本への不信感が高まり、日本国内でも批判が高まった結果、1922 年 10 月に日本も撤兵となった。また、シベリア出兵により、国内では米の買い占めが起こり、米騒動の遠因となった。

◆朴烈と金子文子

1923 年に逮捕された朝鮮人無政府主義者の朴烈とその愛人でもある日本人の思想家の金子文子が皇室暗殺を計画したという大逆事件と、その予審中の風景を「怪写真」として世間に配布させて野党の立憲政友会が政府批判を展開したという付随する出来事。実際にはテロ事件は発生しておらず、未遂の事件が大逆罪に問われ有罪となったのは予審や大審院での朴烈と文子の言動や担当官吏の思惑によるところが大きい。また事件は、むしろ政治利用された面が大きく、実体の伴わないものであった。

◆戒厳令

戦争や内乱などの非常時に際し、全国ないしは一部地域において通常の立法権、行政権、司法権の行使を軍部にゆだねる非常法をいう。国家緊急権制度のひとつ。日本では、1882年に太政官布告として制定された。戒厳の宣告は天皇の権能（旧憲法14条）。戒厳が宣告されると、その地域における立法・司法・行政事務は戒厳司令官の権限に移さ、住民の憲法上の自由・権利は制限されることが認められた。現行憲法では認められない。

◆王希天の殺人事件

1917年頃、周恩来などと同じ頃に日本に留学。1919年5月、五四運動を受けて東京で行われたデモのリーダーの一人として警察にマークされるようになる。関東大震災発生後、中国人留学生宅に身を寄せていたが、中国人虐殺の噂[を聞き、9月9日、共済会の様子を見に大島へ行く。憲兵隊の臨時派出所に寄ったところ不審人物として拘束されるが、中国人を陸軍の習志野演習場へ護送する任務を行っていた隊から依頼を受け、11日まで護送業務に協力する。その後、解放されるが、改めて亀戸署に拘束される。中国人のリーダーである王を危険人物と認識していた同地の野戦重砲兵第3旅団が、この機に王を殺害することを企図し、警察から身柄を引き取った。9月12日未明、旧中川の逆井橋付近で野戦重砲兵第1連隊・垣内中尉が王を斬殺、死体は遺棄された。

王の殺害を知った陸軍中枢は、犯人の処罰を忌避し事件を隠蔽する。しかし10月、王が息不明となった直後から足取りを探っていた王の友人が中国に帰国し、王の殺害疑惑が大々的に報道され外交問題化する。中国人虐殺に関する調査団が来日するが、調査団に対し日本政府（外務省）も隠蔽し続けた結果、事件は迷宮入りとなった。戦後、事件隠蔽に関わった軍関係者などの証言により事件が明らかになった。

◆亀戸事件

1923年（大正12）9月関東大震災が起こると、警察は多くの朝鮮人や社会主義者、労働組合員を検挙したが、亀戸署でも約700名を検挙した。このうち純労働者組合の平沢計七、中筋宇八、南葛労働会の川合義虎、加藤高寿、北島吉蔵、近藤広蔵、佐藤欣治、鈴木直一、山岸実司、吉村光治の10名は9月3日夜検束され、同日夜から5日未明にかけて、習志野騎兵第一三連隊の兵士によって亀戸署構内または荒川放水路で殺害された。10名のうち2名は別の時間に殺されたともいわれている。純労働者組合や南葛労働会は、悪法反対運動やメーデー、1922年（大正11）の大島製鋼所争議などをめぐって亀戸署と激しく対立していた。自由法曹団の布施辰治、山崎今朝弥両弁護士らは事件の真相を追及して司法権の発動を要求したが、すべて黙殺された。

◆甘粕事件

関東大震災直後の1923年（大正12年）9月16日、アナキスト（無政府主義思想家）の大杉栄と作家で内縁の妻伊藤野枝、大杉の甥橘宗一（6歳）の3名が不意に憲兵隊特高課に連行されて、憲兵隊司令部で憲兵大尉（分隊長）の甘粕正彦らによって扼殺され、遺体が井戸に遺棄された事件。軍法会議の結果、甘粕正彦と同曹長森慶次郎ら5名の犯行と断定された

が、憲兵隊の組織的関与は否定された。

◆日清戦争

1894 年（明治 27 年）から 1895 年（明治 28 年）にかけて日本と清国の間で行われた戦争。李氏朝鮮の地位確認と朝鮮半島の権益を巡る争いが原因となって引き起こされ、主に朝鮮半島と遼東半島および黄海で両国は交戦し、日本側の勝利と見なせる日清講和条約（下関条約）の調印によって終結した。

壬午軍乱以後、講和条約の中で日本帝国は、李氏朝鮮に対する清国の一方的な宗主権の放棄を承認させた他、清国から台湾、澎湖諸島、遼東半島を割譲され、また巨額の賠償金も獲得した。しかし、講和直後の三国干渉により遼東半島は手放すことになった。戦争に勝利した日本は、アジアの近代国家と認められて国際的地位が向上し、支払われた賠償金の大部分は軍備拡張費用、軍事費となった。

◆日露戦争

1904 年（明治 37 年）から 1905 年（明治 38 年）にかけて大日本帝国（日本）と南下政策を行うロシア帝国との間で行われた戦争。朝鮮半島と満洲（中国東北部）の権益を巡る争いが原因となって引き起こされ、陸戦では満洲南部の遼東半島や奉天が主な戦場となったほか、海戦では日本近海にて大規模な艦隊戦が繰り広げられた。最終的に両国はアメリカ合衆国政府の斡旋の下で、講和条約としてポーツマス条約を締結した。

講和条約の中で日本は朝鮮半島における権益をロシアに認めさせ、ロシア領であった樺太の南半分を割譲させ、またロシアが清国から受領していた大連と旅順の租借権を獲得した。同様に東清鉄道の旅順 - 長春間支線の租借権も獲得するに至った。しかし交渉の末、賠償金を獲得するには至らず戦後に外務省に対する不満が軍民などから高まり、

9 月 5 日、日比谷公園で行われた日露戦争の講和条約であるポーツマス条約に反対する国民集会をきっかけに発生した日本の暴動が発生。翌 9 月 6 日、日本政府は東京市および府下 5 郡に戒厳令を布き即日施行、近衛師団が鎮圧にあたった。この騒動により、死者は 17 名、負傷者は 500 名以上、検挙者は 2000 名以上にものぼった。

◆大逆事件とは

旧刑法 73 条で「天皇・皇太后・皇后又ハ皇太孫ニ対シ危害ヲ加エ又ハ加エントシタル者ハ死刑ニ処ス」と定められた大逆罪が適用された事件のこと。実際に皇族に危害を加えていなくても、協議したり、計画したりしただけでも適用される。裁判は大審院（最高裁）の一審即終審となる。大逆罪に関連する条項は、日本国憲法制定後の 1947 年に削除された。大逆事件として最も知られているのは、明治天皇の暗殺を企てたとして社会主義者、無政府主義者など数百名が検挙され、翌年、12 名が処刑された幸徳事件だが、他に虎ノ門事件（1923 年）、朴烈事件（同年）、桜田門事件（32 年）がある。

◆韓国併合（1910 年）

日露戦争の結果、調印されたポーツマス条約（1905）、日英同盟（同年改定）においてそれぞ

れ日本の韓国における政治上、軍事上および経済上の地位が承認されたが、さらに日韓協約（同年）によって日本は韓国の外交権を獲得し、韓国は国際法上の保護国となって統監がおかれた。その間、ハーグ密使事件、伊藤博文暗殺、李完用刺傷、啓蒙運動、義兵闘争、農民反乱などの広範な運動があったが、1910年8月22日第3代統監寺内正毅と首相李完用の間で「日韓併合に関する条約」に調印がなされ、8月29日に「併合」は強行され、韓国は日本に領有された。韓国国内でも知識人を中心に反対運動が吹き荒れ、ロシアやアメリカにいる知識人もそれに呼応するかのようには反対の言論運動を行い、在韓外国人紙・誌も反対の論旨を掲げた。しかし日本は軍隊をソウルなど韓国内要地に配置し、反対運動にそなえ、総督府を設立、ここに45年までの日本の朝鮮統治が始った。

◆米騒動（日本）

米価の高騰から始まった民衆暴動。1918年（大正7）7月、富山県魚津市で起きた主婦たちの騒動が8月、9月と全国に飛び火し、大阪、名古屋、東京などで都市暴動に発展した。政府は軍隊を出動させてこれを鎮圧。数万人が検挙され、7000人以上が起訴された。1905年の日比谷焼き討ち事件から連鎖した都市暴動の頂点。関東大震災直後、日本政府はこの混乱が第二の米騒動を引き起こすことを恐れた。

◆三一独立運動（韓国）

1919年（大正8）3月1日、ソウルで33人の知識人が民族代表として「独立宣言」を発表したことから、朝鮮全土に広がった大衆運動。200万人以上の人々が街頭に出て「朝鮮独立万歳」を叫んだ。日本軍と警察はこれを厳しく弾圧。朝鮮人の死者は数千人に上った。16歳の女学生・柳寛順（ユ・グァンスン）が拷問され獄死したり、水原の堤岩里では全住民が虐殺される事件も起きた。このとき、高校生だった朴烈は檄文をまき、朝鮮にいた文子は朝鮮人の運動に「感激」し、「権力への叛逆的気分」をかきたてられた。

◆五四運動（中国）

1919年（大正8）4月、パリ講和会議に反発し日本の二十一カ条撤廃を要求した中国・北京大学の学生三千人あまりによって行われた民衆運動。中国の民族運動、そして社会主義運動の出発点となった。五・四運動は、中国のナショナリズムの最初の高揚を示すもので、孫文の新たな中国国民党の組織化と、中国共産党の出現、そして両者による第一次国共合作の成立、軍閥政府の打倒へと展開していった。

◆大正デモクラシーとその時代

大正期に広がった民主主義的、自由主義的傾向を「大正デモクラシー」と呼ぶ。政治的には、大正政変をきっかけに活発化した普通選挙運動。社会運動では友愛会を筆頭とする労働組合や社会主義運動、「青鞥」などの女性解放運動、新人会などの学生運動。文化的には自由教育などが行なわれた。吉野作造や柳宗悦など、日本の植民地支配のあり方を批判する声も出始めた。都市部の家庭に電気が普及し、映画や週刊誌が大衆娯楽として登場した時代でもある。

—福田村事件 年表—

■西暦／和暦

1894／明治 27

1895／明治 28

1904／明治 37

1905／明治 38

1910／明治 43

1911／明治 44

1914／大正 3

1915／大正 4

1917／大正 6

1918／大正 7

1919／大正 8

1922／大正 11

1923／大正 12

1924／大正 13

1925／大正 14

1926／大正 15・昭和元

1927／昭和 2

1941／昭和 16

1945／昭和 20

1954／昭和 29

1957／昭和 32

日清戦争勃発（～1895 年）

下関条約を結び、台湾割譲

2 月 8 日、日露戦争開始

日露講和条約調印

大逆事件の大検挙。8 月 29 日、韓国併合。第 1 次世界大戦に参戦

1 月、大逆事件で幸徳秋水、菅野スガラ 12 名が処刑

第 1 次世界大戦に参戦

日本、対華 21 カ条を要求

ロシア帝国において 10 月革命が起きる

7 月、富山県魚津市で起きた米騒動は、暴動となり全国に

8 月、ウラジオストクに日本軍上陸、シベリア出兵が始まる

9 月、斎藤実朝鮮総督の補佐役として水野錬太郎が政務総監に就任。

ソウルにて斎藤総督とともに爆弾事件に遭う。

3 月 1 日、三一独立運動起こる。

5 月 4 日、中華民国において五四運動が起きる。

夏に世界中で猛威をふるったスペイン風邪が遅れて日本に到達、大きな

被害をだす。

7 月 29 日、読売新聞、新潟県中津川朝鮮人虐殺事件を報道。朴烈などが、現地調査。10 月、日本軍、シベリアより撤兵、シベリア出兵終了する

8 月 24 日、加藤友三郎総理 死去

9 月 1 日、11 時 58 分 関東大震災発生。震災後の流言により、朝鮮人、中国人らの虐殺が相次ぐ。内務大臣を務めていた水野錬太郎と赤池濃警視總監が当面の責任者とされる

9 月 2 日、午後 3 時に臨時閣議により、臨時震災救護事務局の設置が決まり、山本権兵衛に組閣の大命を下った後、親任式等を午後 5 時に執り行って山本内閣が成立し、内務大臣は後藤新平となる

関東一円で朝鮮人虐殺始まる

同日、東京府下 5 郡に戒厳令を一部施行。同日、亀戸署に連行された南葛労働会の川合義虎、山岸実司、鈴木直一、近藤広造、加藤高寿、北島吉蔵、吉村光治、佐藤欣治、純労働者組合の平沢計七、中筋宇八の 10 人の活動家が騎兵連隊兵士によって殺害される（亀戸事件）

9 月 3 日、戒厳令、東京府と神奈川県全域にまで広げる。文子と朴烈、「保護検束」される。

9 月 4 日、戒厳令を埼玉県、千葉県に拡大。習志野収容所に朝鮮人を収容することを決定

本庄事件、熊谷事件が起きる

9 月 5 日、山本権兵衛首相が、朝鮮人迫害に[自重]を促す内閣告諭を発表

9 月 6 日、福田村事件起こる

戒厳司令部が朝鮮人への「無法の待遇」を絶対に慎めと、注意を発表

9 月 7 日、出版、通信を含め流言飛語を罰する緊急勅令を発表

9 月 12 日、王希天、軍に殺害される

9 月 16 日、アナキストの大杉栄、伊藤野枝、大杉の甥の橘宗一少年が甘粕正彦憲兵大尉に殺害される。（甘粕事件）

9 月下旬、自警団による殺傷、騒擾事件の検挙が始まる

11 月 28 日 被疑者（福田村 4 名、田中村 4 名）の第一審公判始まる

12 月 27 日、虎ノ門事件が発生し、その影響で山本内閣は総辞職

1 月 7 日、内閣総理大臣に清浦奎吾が指名され、内務大臣は再び水野錬太郎となる

8 月 2 9 日 上告審判決 7 名確定（福田村 4 名 田中村 3 名）

治安維持法公布

12 月 25 日大正天皇死去昭和へ改元

2 月 7 日、福田村事件第二審より 2 年 5 ヶ月して大正天皇の死去に関連する恩赦で、全員無罪放免

太平洋戦争勃発

日本敗戦

9 月 柏町、小金町、土村、田中村が合併 「東葛市」市政施行

11 月東葛市を柏市に名称変更

4 月 福田村、野田市に合併